

シリーズ 6 間瀬6区

運動会では最強群団

■今月の「おじゃまします」—地域情報ネット「ワーク」は、夏の強烈な日差しと海の魅力に誘われて間瀬六区におじゃましてみました。

「間瀬はやっばり夏がいちばんだね。気候もそうだけど、避暑や墓まいりなんかで大勢の人が帰って来て、久しぶりのにぎわいにわき、なんとなく浮き浮きしちゃうね。」とニコリ話す区長の鈴木哲夫さん(72歳)。そうです、海のまち間瀬は夏がとっても似合います。また帰省客などで人の交流も多くなり、地区全体がパツと明るくなる感じです。「間瀬はご存じのとおり昔は一村をなして



毎年6月はじめに行われる学区・地区合同運動会では常勝の6区

いました。旧間瀬村ですね。いまは間瀬一区から七区までの七つの行政区に分かれています。その各区に区長がいますが、これといって区単位で活動することは少なく、全区合同でやっています。まあ、しいてあげれば六月の間瀬小学校・地区合同運動会と年一回の海岸清掃(全区合同の普請)のときくらいなものですかね。だから他地区と違って単独でなにかやるといことは少ないね」と地区全体の動きが多いといいます。

しかし、区単位の活動が少ないといってもこの間瀬六区、学区・地区合同運動会(いまでは盆おどりや秋まつりと並ぶ、地区の一大イベントになっています)では常勝の最強地区なんです。「過去二十二年の大会のうち、十四〜十五回は優勝しているでしょうか。世帯数は五十で間瀬では二番めに多い区ですが、そのうち半分はいわゆる老人世帯で、ふつうだと力不足の集団のようですが、運動会実行委員の努力とここは昔から足の速い人、力強い人が出ているせいか、区全体に団結力があついている感じがしています」と区民のままとりの良さを強調する鈴木区長さん。優勝祝賀会は区長さんの自宅でワイワイガヤガヤ腰が抜けるほど飲んで美酒をくみ交わすそうです。そんないい伝統は地区民への助け合いにも生かされ、一人暮らしの老人世帯への雪下ろし支援や必要寄付金の区一括納入(区でまとめて支払います)をやっている心やさしい地区です。「それに、いま区内には空き家が十六軒くらいありますが、人が住んで



間瀬6区 区長 鈴木哲夫さん (72歳)

いない分、防犯や防火面・衛生面で神経を焼かすため、区費をいただいています(月千円)。ふつうだと住んでいないので、支払いが遅れることも多いんですが、ここは違いますね。みんなちゃんと支払いをしてくれまして、まず文句をいう人なんて一人もいません。そんなちよつとした面でも六区の人たちの律儀さと人情味みたいなものを感じますね」と人間関係のスムーズさを話す区長さん。でも課題がないわけではありません。「ここももう十年くらいたつと人口も相当減つてしまふ危機感を感じます。だからいまから若い世代の人たちが定住できるなにかよい方策を本気で考えなければならぬ時期に来ているような気がします。とにかくここは住むにはホント天国みたいな環境のいい所ですよ」と新しい時代の対応を語る区長さん。

最後に「間瀬の人は口が悪いとよく言われますが、その反面、気持ち(心)はみんないい人たちですよ」といった区長さんの言葉にうなづける面がホントに多いな、と感じた間瀬六区でした。

間瀬6区 ミニデータ

| 人口と世帯数 | |
|-------------|-----|
| 人口 | 157 |
| 男 | 70 |
| 女 | 87 |
| 世帯数 | 50 |
| (63年8月1日現在) | |

編集 後記

■まだまだ暑い日が続きますね。ところで、先月十五日に行われた村の成人式。この日は朝からカンカン照り。気温もさることながら、それにもまして集まったハタチの若者たちの熱気で気温はもうウナギのぼり。この日は友との久しぶりの再会にワイワイ、ガヤガヤ…。集まった人たちには今夏で「一番」熱く長い一日になったのでは? ■暑い暑いといっても、もう九月。いよいよよみのりの秋ですね。農家の人たちにとっては、これからが「一番」忙しくうれしい季節。来月の今ごろは、農家の皆さんの笑顔がみられるかな? (一) ■先月九日、「ちよつと岩室村へ遊び?」に行くから」と黒崎町の広報担当一さんからの電話。お昼近くに白根市のSさんや富山県朝日町のKさん、同じく入善町のAさんと一緒に役場へ。もちろん富山県の二人の広報マンとは初対面不慣れな名刺交換に続き、本村の紹介?や熱心?な広報談義をして現地探訪へ。■シーサイドラインから間瀬・田ノ浦海水浴場へ案内したのはいいが、楽しそうな海水浴客を尻目に「アアツ、あついな、ネクタイ姿で来るんじやなかった…」と半ば悲鳴に似た編集子のボヤキでも、暑い中ではありましたが、新しい友との厚いコミュニケーションは図れたような気がします。とってもいい日でした。(み)